

稿 認められた

寄 「持続可能な地域社会」への歩み

小田原市長 加藤憲一

令和の時代に入り、小田原市は国が進める2つの重要な事業において、

「SDGs」は国連が2015年より提唱する「持続可能な開発目標」であり、環境・経済・社会の17分野における取り組みを連関させながら、誰一人取り残さない社会を目指すもの。「地域循環共生圏」は、近接する地域間で多彩な地域資源を繋ぎ循環させ、自立かつ持続可能な圏域を目指す構想。小田原市の提案は、それらの成否のカギを握るのが「人材」であると考え、各分野の課題解決活動の現場を「学びと交流の場」として開くことで、人が育ち課題解決が進むと共に、そこに参加する交流人口や関係人口の拡大に

「SDGs」は国連が2015年より提唱する「持続可能な開発目標」であり、環境・経済・社会の17分野における取り組みを連関させながら、誰一人取り残さない社会を目指すもの。「地域循環共生圏」は、近接する地域間で多彩な地域資源を繋ぎ循環させ、自立かつ持続可能な圏域を目指す構想。小田原市の提案は、それらの成否のカギを握るのが「人材」であると考え、各分野の課題解決活動の現場を「学びと交流の場」として開くことで、人が育ち課題解決が進むと共に、そこに参加する交流人口や関係人口の拡大に

よって地域経済の活性化をも目指すものです。環境・福祉・地域コミュニティ・子育て・第一次産業・文化・観光など、積年の協働を通じて信頼と連携関係を築いて来た多くの市民の皆さんが先導者となり、そこに1・2期生合わせ既に100人以上が学ぶ「おだわら市民学校」の動きなどが繋がることで、このサイクルは加速して行きます。これまでの協働の成果が、持続可能な地域の姿に結実するよう、オール小田原で進みましょう！

田原市は国が進める2つの重要な事業において、モデル都市認定を受けました。5月には「地域循環共生圏づくりプラットフォームフォーラム事業」、7月には「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」。市長就任3期目の最終年度において、全国の中でも選ばれた都市としてこれらの認定を受

意味するからです。

「SDGs」は国連が2015年より提唱する「持続可能な開発目標」であり、環境・経済・社会の17分野における取り組みを連関させながら、誰一人取り残さない社会を目指すもの。「地域循環共生圏」は、近接する地域間で多彩な地域資源を繋ぎ循環させ、自立かつ持続可能な圏域を目指す構想。小田原市の提案は、それらの成否のカギを握るのが「人材」であると考え、各分野の課題解決活動の現場を「学びと交流の場」として開くことで、人が育ち課題解決が進むと共に、そこに参加する交流人口や関係人口の拡大に

よって地域経済の活性化をも目指すものです。環境・福祉・地域コミュニティ・子育て・第一次産業・文化・観光など、積年の協働を通じて信頼と連携関係を築いて来た多くの市民の皆さんが先導者となり、そこに1・2期生合わせ既に100人以上が学ぶ「おだわら市民学校」の動きなどが繋がることで、このサイクルは加速して行きます。これまでの協働の成果が、持続可能な地域の姿に結実するよう、オール小田原で進みましょう！



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目を務める。妻と子供2人の4人家族。

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力

(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

(月・水・金 10:00~17:00)

<https://www.katoken.info>